

タリであつたであらうが、之だけで直に古事記の御綱柏をオホタニワタリと断定するのは多少の無理がありはしないかと思はれる。

四、以上で御綱柏の何であるかといふ諸説を述べ盡したつもりであるが、果して何れが真か。

私は古事記や日本書紀にある御綱柏といふものは結局傳説の植物として見るのが穩當であるまいかと思ふのである、古書に確かな形態の記載がないのであるから、後になつて之を何植物であると判定せんとするのは頗るむづかしい問題といふよりも寧ろ不可能であるといふべきである、伊勢の記でも宮川日記でも後世の人の書いたものであるから、之等の書物に御綱柏といつてゐるものでもそれが果して古事記や日本書紀にあるものと同じものであるかどうかは永久に解けない謎として残るものとししか考へられないのである。

抄 録

ブーランガー氏：—東亞薔薇屬合體花柱類再檢 (G. A. BOULENGER :—Revision des *Roses* d'Asie de la Section des *Synstylae*. in Bull. Jard. Bot. de l'État, IX. fasc. 4, 1933. p. p. 203—279.)

著者はベルギーで自分の手元に CREPIN氏所藏薔薇屬の標品を有すると云ふ所から斯かる仕事をやつたものだらふが、其 Revision のあとは、めちやめちやである、よく我念の強い未熟な分類家が澤山の標品も持たずに往々かゝることをするものであるが、又同時に歐洲の分類家は最早、日本植物に手を出さず資格のなくなつた事を十分にあらはしてゐる、此氏の Revision の如きは日本植物家の唯一笑を買ふのみであらふ。(G. K.)

秦仁昌：—支那蕨屬 (R. C. CHING :—*Sinopteris* CHING, nov. gen. in Fan. Mem. Inst. Biol. Peiping, China, vol. IV. no. 10, 1933. p. 359. t. 1-2.)

秦仁昌氏は四川、雲南、直隸の地方に於て支那蕨屬 (*Sinopteris*) を新に設立せり、本屬植物は一般習性及び外部形態に於ては頗るヒメウラジロ (*Cheilanthes argentea*) に類似せり、然れども到細に研究すると總ての裏星科植物 (Polypodiaceae) より全く異なるものなり、即ち本屬植物の孢子嚢は葉脈の先端に於て獨生し極めて稀に双生し、縁包膜にて被るもので、囊堆は單一子嚢より成るものである、Monangiae Sorus は原的性質で *Botrychium* や *Mohria* (Schizaeaceae) の如き下等羊齒に見る事で裏星